

全国屈指福祉社会議で施策を協議

問い合わせ 政策調整課 (☎0213)

一人ひとりに寄り添った支援を目指す

- 今年度2回目の全国屈指福祉社会議が1月19日、市保健センターで開催され、市の福祉施策について協議・検討が行われました。
- 会議では、来年度実施する福祉施策をまとめた「福祉王国プログラム2021」を発表。市民一人ひとりに寄り添った支援を実現するため、7つの部会が内容を報告しました。また、全部会の横断的調整を担う地域連携部会が、新たに重点施策を設定。新庁舎完成予定の令和6年度までに、地域と行政が一体となって福祉施策に取り組む体制の構築を目指します。主な内容は次のとおりです。
- 各コミュニティ地域づくり協議会と懇談を実施し、地域課題を把握
 - 「子ども虐待ゼロ部会」
地域交流の拠点づくりや貧困対策のため、子ども食堂の新規開設を支援
 - 「障がい者支援部会」
総社デニムマスク事業などで、障がい者就労継続支援A型・B型事業所の給与・賃金向上を支援
 - 「発達障がい児支援部会」
配慮を必要とする子どもの支援や、義務教育終了後のサポート体制づくり、切れ目なく支援
 - 「待機児童ゼロ部会」
保育士の離職防止のため、研修を実施
 - 保育補助者の雇用を支援し、保育士の負担を軽減
 - 「発達障がい児支援部会」
配慮を必要とする子どもの支援や、義務教育終了後のサポート体制づくり、切れ目なく支援
 - 特別支援教育推進センターと連携し、教職員の研修体制を強化
 - 「健康ゲット部会」
「歩得」健康商品券事業やサイクリングの普及促進で、健康づくりを推進
 - 「障がい者支援部会」
がん検診の受診率向上のため、検査体制の整備と啓発活動を実施
 - 子育て中の親を対象に、家庭看護力講習会を実施
 - 「障がい者支援部会」
総社デニムマスク事業などで、障がい者就労継続支援A型・B型事業所の給与・賃金向上を支援
 - 「発達障がい児支援部会」
配慮を必要とする子どもの支援や、義務教育終了後のサポート体制づくり、切れ目なく支援
 - 特別支援教育推進センターと連携し、教職員の研修体制を強化



市長は、「障がい者や高齢者など、弱い立場にある人に全力で寄り添っていく」と述べた

2月臨時市議会を開催

問い合わせ 総務課行政係 (☎0218)

新型コロナウイルスワクチン接種などの予算可決

2月3日、臨時市議会を開催。令和2年度一般会計補正予算を審議し、原案どおり可決されました。



市長は提案説明の中で、「集団接種や医療機関での接種は、自身の病院を休診にするなど特別な体制でご協力いただく。安心して接種できる体制を構築するうえで必要な予算としている」と述べた

感染症対策に係るもので、4億5100万円の増額。市独自の対策として、ワクチン接種に対する医療機関・スタッフへの協力金に1億円、高齢者施設でのクラスター発生時の濃厚接触者の家族などに対する宿泊や診療・検査の支援に120万円を計上。そのほか、ワクチン接種に係る医療機関への手数料に3億1878万円、医療資機材の調達に130万円、ワクチン接種券の発送などに919万6000円などです。

協力金は、集団接種会場で活動する医療スタッフに一人当たり1日2万円、個別接種を行う診療所に月最大20万円、病院に月最大60万円を支給するものです。

消防表彰伝達式を実施

消防活動功労団員・団体を表彰

1月17日、消防表彰伝達式が市消防本部で行われました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年開催している消防出初式は行わず、規模を縮小して表彰伝達式を実施。消防殉職者への黙とうや、消防活動に功労のあった分団と団員の表彰を行いました。参加した団員らは、自らの士気を高めるとともに、火災やさまざまな自然災害から市民を守る決意を新たにしていました。

問い合わせ 市消防本部消防総務課 (☎0218342)



消防職団員約50人が参加した表彰伝達式(写真上) 代表して表彰を受ける消防団員(写真左)

